

Newsletter 45

慶應義塾大学教養研究センターニューズレター第45号/2024年11月29日発行

Contents

巻頭言

特集Ⅰ 「基盤研究」「読書会」

特集Ⅱ 「情報の教養学」「学習相談」

特集Ⅲ 【教養研究センター 実験授業／設置科目】
庄内セミナー／日吉学／生命の教養学／エンターテインメントビジネス論／身体知

特集Ⅳ 「日吉行事企画委員会（HAPP）企画」

特集Ⅴ 「日吉キャンパス公開講座」「みなさんmiraiプロジェクト」

「創造力とコミュニティ研究会」

活動予定

私の〇〇自慢



渋谷サクラステージの「壁」

そういえば、渋谷

教養研究センター副所長
三原龍太郎（経済学部）
Ryotaro Mihara

「そういえば昔、渋谷に住んでいたんだよな」ということを唐突に思い出しました。今から25年くらい前、大学学部の最初の2年間、南平台にある学生寮に下宿していたことを。学部後半は駒場に住み、就職後も東横線が通勤ルートだったので、渋谷はその後もしばらくは自分のターミナル駅でした。

「そういえば今、渋谷ってすごく変わっているんだよな」ということも併せて思い出しました。留学やら転職やらでしばらく行かないでいる間に大規模再開発が進行して、渋谷はどうやら当時とはかなり様変わりしているらしいということ。

現在の渋谷は当時の思い出の渋谷からどれくらい変わっているのだろう？この「リサーチクエスト」に答えるべく、週末を利用して渋谷の「思い出スポット」をめぐる「フィールドワーク」を敢行しました。

南平台の学生寮には渋谷駅の現在の西口からセルリアンタワーの辺りを通って帰っていたので、今回もそのルートを通ろうとしました。ところが西口エリア全体が壮大な解体工事の真っ最中で、当時の駅施設がほとんど取り壊されてしまっていたため初手から躓きました。思い出スポット、早くも消失。

気を取り直して進み、帰寮ルートの途中だった桜丘の下り坂の上で立ちみると、はるか先の空には当時存在していなかったタワーマンションがニョッキリと生えています。坂を下りきって、桜丘郵便局から渋谷駅の方面を見やると、これまた当時はなかった渋谷サクラステージの巨大なビルが壁のように屹立して坂の上の雲ならぬ空を遮っています。途中にあった小学

校はいつの間にかなくなり「渋谷区文化総合センター大和田」というやはり高層の建物に変わっていました。セルリアンタワーも渋谷ヒカリエもそうですが、建て替えや街区整備で足元の道が随分と広く歩きやすくなった反面、目線よりも上の空は以前よりも「抜け」なくなっているようです。

「地下」も変わっていました。地下の食品売り場で1パック数百円のお総菜を買っていた東急プラザ渋谷はずいぶん煌びやかな建物になり、地下1階は「防災センター」なるものになっていて一般客が入れない仕様になっていました（現在の住民はお惣菜をどこで買っているのでしょうか？）。雑貨屋やハンコ屋のような小さなお店がたくさん並び、その店主の一人が飼っていたとおぼしき白い子犬がチョコチョコと歩き回っていた「しぶちか」もずいぶん整然とした地下道になり、チェーン店も入っていました（あの子犬はどこへ行ってしまったのでしょうか？）。

「食」も変わっていました。赤ん坊の頃から家族ぐるみで通っている神戸牛鉄板焼のお店はマスターが代替わりし、寮生の頃に通っていたセンター街のインドカレー1,000円食べ放題レストランはなくなっていました。就職してから通った渋谷川沿いの背脂醤油ラーメンの店主が亡くなりあのラーメンを未来永劫味わうことができなくなってしまったかと思えば、その後留学した先のボストンで味を覚えたが日本では食べられないだろうと諦めていたアメリカのロブスターロールが公園通りで食べられるようになっていました。

私は都市論の専門家ではありませんが、記憶、五感、資本といった要素が絡まりあい、そこに時間という推進剤が複雑にしかし確実に作用しながら渋谷という空間が形作られているのだなど実感できた「フィールドワーク」でした。

聞けば友人はお子さんを桜丘方面の保育園に通わせているそうです。私にとっての「変わってしまった渋谷」は、その子にとっての「思い出の渋谷」になっていくのでしょうか。

基盤研究

教養研究講演会 no.10

「宗教の中国化」政策：文化的レトリックと統治戦略

- 【講師】 汲 喆 (フランス東洋言語文化学院社会学教授)
- 【司会】 酒井規史 (商学部准教授)
- 【通訳】 山下一夫 (理工学部教授)
- 【企画】 小菅隼人 (理工学部教授)

宗教は人々の生き方を支える精神的な土台であり、これを理解することは教養の重要な部分を占めています。基盤研究では過去にキリスト教についての講演会を開催しましたが、その後アジアの宗教も取り上げようと計画していたところ、フランスの中国系研究者である汲喆 (Ji Zhe, ジー・ジャー) 先生が来日されることを知り、先生と面識のあった所員が交渉して、現代中国の宗教について講演し

ていただきました。汲喆先生は1974年に中国で生まれ、渡仏してフランス社会科学高等研究院 (EHESS) で博士号を取得し、現在はフランス東洋言語文化学院 (INALCO) の教授として、近現代漢伝仏教や宗教グローバルイズムなどを研究しています。講演は、現在の中国で漢伝仏教・チベット仏教・道教・キリスト教・イスラム教などの宗教がどのような状況にあるかを、政策との関係で解き明かすというもので、学内外の多くの参加者と活潑な議論が交わされ、大変充実した講演会となりました。

(山下一夫)



文理接続プロジェクト

2024年度の「文理接続研究会」は、「人工」を新たな共通テーマとして定め、3回のゲスト講演と4回のワークショップを予定しています (3回目のゲスト講演と1回目のワークショップは同日に開催しました)。昨年まで年に10回程度行ってきた小規模の研究会の回数を減らし、その分、終日開催のワークショップの回数を増やして、活動をより集中的なものにしました。

年度末までに論考集『接続』第3号 (2025年4月発行予定) への掲載論文を作成することを前提に、8月2日に計画発表 (10名が発表)、9月28日と11月23日に中間発表、2月28日に最終発表を行い、文理を跨ぐ異なる分野の研究者たちが自由に議論をし、大いに触発し合います。

研究会の活動については随時ブログで公開・更新しており、2022年度、2023年度の成果である『接続』第1号、第2号も閲覧できます (<https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/bunri/>)。研究会への参加は基本的に研究者・教員に限定していますが、前提知識が必要なわけではないので、どなたでも気軽にご参加いただけます。関心のある方は、ぜひご連絡ください。

(荒金直人)



※写真は藤原慶 (理工学部准教授) の講演
「生命科学・化学にみられる多様な階層の人工細胞」

読書会「晴読雨読」アイデアの系譜学

教室と部室の間の<サード・プレイス>を目指して

本とアイデアを持ち寄る読書会も、2年目に突入しました。24年度上半期は、特別企画「対話! 対決! 対照! 片山教養研究センター所長と若澤所員が喋り倒す!」を含め、5回のイベントを実施しました。本対談では、会場の大会議室が学生や教員の参加者で満杯になり、主催者として嬉しい悲鳴を上げました。通常回では、毎回10名~20名程度の参加があり、和気あいあいとした「お喋り」が続く回もあれば、研究者同士で「論戦」になることもあり、あるいは10代の学生の語りを「世代を超えて傾聴する」場になることもあり、その様相は変幻自在です。授業よりはフラットで、部活よりはアカデミックな、いわば大学キャン

パスの「第三の場」を志向して、引き続き企画運営を行っていきます。編集遊戯、分解と発酵の思考術、かたち学、舞台上で踊る思考、といったように、毎回のタイトルはどこか謎めいたものを、しかし同時に、一つの知の世界を構成するようなフレーズを心がけています。

(若澤佑典)



情報の教養学 (2024年度春学期)

2024年度春学期の「情報の教養学」では、4件の講演を実施しました。まず、高橋直大氏 (AtCoder (株) 代表取締役社長) は、アルゴリズムを解説しました。アルゴリズムの例をいくつか紹介した上で、それで何が可能になるのか、また機械学習やAIとのすみ分けについて議論しました。

次に、福井健策氏 (弁護士) は、デジタルアーカイブをとりあげました。アニメ、文庫本、放送台本などを例としてとりあげ、国内外の取り組み、著作権から見た許諾・非許諾のアーカイブ活動、そして、日本における政策提言を紹介しました。

3件目では、大黒岳彦氏 (明治大学教授) は、「情報」という言葉に着目しました。昔は役に立つ知らせであったのに対し、情報科学が発展するにつれて、パターンとしてとらえられ、2000年に入ると意味を欠いた単なる大量のデータとなり、そして近年はその無意味なデータから意味を見出そうとしている流れを解説しました。

最後に、伊藤公平塾長は、慶應義塾と米国CMUとのAIのパートナーシップの話、教育においてAIをどのように応用できるか、人口減少が起きる今後において大学教育がどうあるべきなのかについて議論しました。

いずれの講演も参加者は興味深く聴講し、質疑も活発でした。秋学期は、2件の講演を実施する予定です。

(高田眞吾)



学習相談

昨年度に引き続き今年の春学期も多くの相談をお受けすることが出来ました。

例年春学期は秋学期に比べて相談件数が多い傾向にありますが、この理由としましては経験の浅い新入生を中心に、大学で課される注などを含んだ本格的なレポート課題に戸惑われている方が多いからではないでしょうか。新しく大学生活を始めるにあたって、不慣れた履修や課題提出のシステムに混乱したり、環境の変化も相まって不安を感じられているような方も見受けられました。

そこで今年は企画として相談員との座談会を開催し、レポート作成の補助の枠組みを超えて様々な悩みや不安に

ついてある程度、解消の手助けをすることが出来たのではないかと考えています。

ピア・メンターの意味、“同じ立場”である学生に相談を行える機会は大学内でも意外と少ないように感じるので、今後も貴重な機会であり続けられたら良いと感じております。

(中山翔琉 理工学部機械工学科3年)



学習相談員による新生活応援座談会

日吉メディアセンターでは学部1年生向けの座談会が開催されました。初回は5月8日、大雨にもかかわらず4名の学生が参加し、続く5月14日には、10名の学生が集まりました。

座談会は2部構成となっており、前半は学習相談員4名による学業とプライベートの両立方法についてのディスカッション、後半では学習相談員が参加者の相談に対応しました。相談パートでは参加者からはレポートの書き方やゼミの選び方など多岐にわたる質問が寄せられ、予定の30分を大幅に超えて1時間近い時間が費やされま

した。

学習相談員としてはコロナ禍以来、初めての対面イベントであり、探り探りの雰囲気でしたが、想定よりも多くの参加者が集まった事で学習相談の周知に繋がったと考えています。次回の座談会企画にあたっては開催時期やテーマの選定の再検討を行いたいです。

(米満優希 法学部政治学科4年)



2024年度庄内セミナーは中止に

列島全体を苦しめた台風10号により、実行委員会は8月29日から9月1日まで開催予定だった2024年度庄内セミナーの中止を8月27日に決定しました。鶴岡市役所をはじめ現地の皆様への影響や慶應側の復路の混乱が予想され、やむなき判断でしたが、庄内セミナーを楽しみに待っていた大学生15名と高校生5名が、この決定を速やかに了承してくれたことに感謝しています。

もともとセミナー開催日の1日前に現地入りを予定していた小菅隼人（理工学部）・鳥海奈都子（慶應義塾高等学校）・富田いづみ（教養研究センター事務局）・鈴木亮子（経済学部）の4名は、進路予想図を睨みつつ8月29日（木）の帰りの足を確保した上で予定通り現地に赴き、29日に関係各所を回りお詫びのご挨拶をしました。行く先々で庄内セミナーの今回の中止は残念だが安全第一だと言って頂き、また来年度以降もぜひセミナーを続けてほしいと励ましも頂戴し、現地の皆様への感謝の念を新たにしています。

鶴岡はユネスコ食文化創造都市認定から10年経ちます。

今回お詫びに伺った中で、食に関わるお二方を紹介します。毎回参加者に大好評の郷土料理「知恵軒」の長南光様は、「地産地消ではなくて土産土法」とおっしゃり、地域の土に育まれて生命力豊かに育った地野菜を、その土地の人々が慣れ親しんだ方法で供することを守り続け、また綴織りの名手としても大作を完成させています。エルサンワイナリー松ヶ岡代表の早坂剛様は、月山を望む松ヶ岡でワイン醸造を志し、2017年から葡萄の苗を植え次第に区画を広げ、山形大学や慶應義塾大学先端生命科学研究所などと産学共同で土壌や葡萄の改良を重ね、風土が育んだワインを造り続けています。「ワイン造りの苦労の連続の中で、苗や土地、そして人との幸運な出会いに恵まれたが、それは自分が懸命に動き回ってきたからこそ。」と話してくださいました。

鶴岡の食と文化を盛り立てているお二人は、「続けること」への揺るぎない信頼と、ご自身の「思いを語る言葉」を持って生きている。今度は学生とともに、お会いしたい。あらためてそう感じた訪問となりました。（鈴木亮子）

※写真は2023年度開催の庄内セミナー



株式会社コーエーテクモホールディングス寄附講座「日吉学」

～発見編 見えないものを見てみよう～

今年度の「日吉学」は、「発見編 見えないものを見てみよう」と題し、これまでよりも受講生一人ひとりの「日吉」というフィールドでの気づきを大切に、研究テーマとして発展させていくことに重点を置きました。学期の前半では、グループによるフィールドワークを実施したうえで、そこでの気づきを記録し整理するというアクティビティを行い、後半では、前半の取り組みで得た発見を、教員や受講生同士の議論のなかで学術的な問題として深めていき、レポート（4000字）にまとめてもらいました。一人ひとりのフィールドでの気づきを大切にすることで、個々のテーマは例年以上に多様になったものの、「日吉」に直結したものが多くなりました。そのため受講生同士の議論が活発になり、レポートのクオリティを全体的に高めることにつながったようです。



（安藤広道）

生命の教養学

文理横断・領域横断的な「教養」の見地から「生命」をめぐる問題に迫る本授業。2024年度のテーマは「死と再生」でした。古来、最も人間の関心を引き続けてきたであろう、この壮大な主題にいま、アプローチするにあたり、意識された問いは次のようなものです。まさしく再生医療への注力やAI開発によって、ますます死を生から排除していくかに見える私たちの時代は、死に条件づけられたものとしての「再生」の可能性をも封じていくことになるのか。11回のオムニバス講義では、相分離生物学、医療人類学、道教研究、音楽情報処理、西洋美術史、イタリア文学、発生生物学、宗教人類学、比較動物学、教育哲学、ドイツ文学と、多彩な分野の専門家に登壇いただきました。講義後の質疑は、講師も運営側も驚くほど熱のこもったものとなりました。



（石川 学）

株式会社アカツキ寄附講座「エンターテインメントビジネス論」

2024年度春学期に「エンターテインメントビジネス論」を実施しました。アニメやゲームを始めとしたエンターテインメントビジネスについて、理論と実務の双方から学際的・分野横断的なアプローチを行うもので、2022年度に実験授業を実施した後、2023年度から株式会社アカツキ寄附講座として正式に開始されました。2024年度は、三原龍太郎（経済学部）がコーディネーターをつとめるとともに全ての授業を非常勤講師の中山淳雄が担当し、VTuber、アニメ、テレビ、ゲーム、芸能、アート、映画といったエンターテインメントビジネスの各分野についての講義を行い、さらにそれらの分野と関係するゲストスピーカーとの対談を行うという形式で進められました。ゲストスピーカーは毎回非常に豪華なメンバーで、出席者と登壇者との間で活発な議論が交わされ、非常に充実した内容となりました。



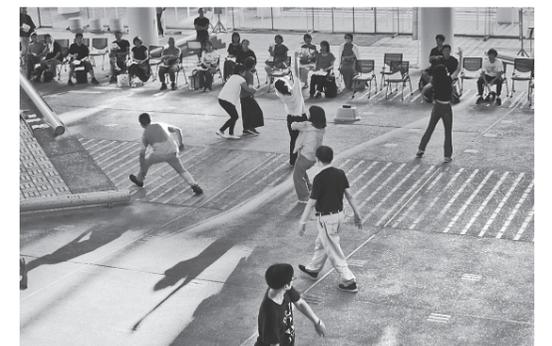
（三原龍太郎）

春学期特定期間集中講座「身体知」

2024年度も8月の2週目に身体知の集中講座が開講されました。今年は題材として「再会」をテーマに3つの文学作品を選びました。また、昨年度に引き続き特別講師にダンサー兼振付家のアオキ裕キ氏をお迎えし、氏の主導で心と身体に向き合う準備時間を十分に取りました。そのため文学作品の読み込みとディスカッションも非常に深いものとなり、身体と頭と心をつなげる授業が可能となりました。とはいえ、今年は思ってもみない残念な事態が起きました。台風の接近により、金曜日の3コマ（各コマ90分）がすべて休講となり、最後の公開成果発表会の準備の時間を十分に取ることができませんでした。その分みんなの集中力がすさまじく、当日はアオキ氏が率いるダンスユニット「新人Hソケリッサ！」のメンバーを迎え、ほぼインプロビゼーションで（そしてインプロビゼーションだからこそ）、来往舎のイベントテラスを使って素晴らしい言語の身体化と身体の言語化を図ることができました。



（横山千晶）



日吉行事企画委員会 (HAPP) 企画 (春学期)

新入生歓迎舞踏公演：笠井 毅『未完成』

本公演において、笠井氏は、『未完成』、『アランフェス協奏曲』、『冬の旅』を使い、客席に頻繁に出て行って、観客と絡みながら、全空間を埋め尽くすように内面の思いを響かせていました。その間に発せられた「戦争は悪魔の踊りです」というフレーズが強く印象に残っています。カーテンコールでは、受け取った花束から、花卉をむしり取って客席に撒いて喜びを共有しましたが、笠井氏にしかできないであろう、その思い切った行為も観客の深い感動を生みました。笠井氏の動きは予測がつかず、舞台担当者には難しいオペレーションとなりましたが、

曾我傑氏の繊細な照明が見事なコラボレーションとなって、観客を魅了しました。

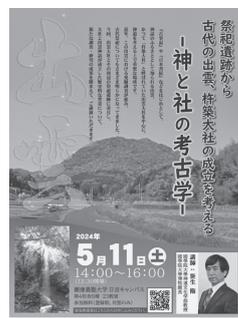
ポストパフォーマンス・トークでは、会場からの質問やコメントを募りましたが、3人の若い参加者による、非常に思索的で唆に富んだ発言が続き、印象深い夜となりました。
(小菅隼人)



祭祀遺跡から古代の出雲、杵築大社の成立を考える—神と社の考古学—

2024年5月11日 14:00～16:00 (第4校舎B棟23教室)。國學院大學博物館長 笹生衛氏(神道文化学部教授)を講師に迎えて行ったHAPPの新入生歓迎行事です。杵築大社(明治より出雲大社)は、2000年の出雲大社境内の祭祀遺跡発掘調査で、4世紀後半頃から祭祀的行為が行われていたことがわかりました。生命を維持するのに不可欠な水と、水源としての山への信仰を基盤としています。その祭祀の場が7世紀中頃から、天皇の居所と同じ「瑞垣」で囲う形に整備されたのです。御講演は、古代出雲のことはもちろん4世紀に遡る数少ない日本国内の遺

跡(宗像市宗像沖ノ島祭祀遺跡、南房総市小滝涼源寺遺跡)と、水辺に関わる様々な祭祀遺跡の比較で日本全体にも目配りしたものでした。そして和歌の始まりとされるスサノオの「八雲立つ 出雲八重垣 妻ごみに 八重垣つくる その八重垣を」歌について理解を深めるものでもありました。
(津田真弓)



日吉陸上競技場 リニューアル記念 Enjoy Sports Day

【企画】慶應義塾大学体育研究所／慶應義塾体育会競走部
【協賛】セイコーグループ株式会社

日吉陸上競技場のリニューアルを祝し、4月14日に「Enjoy Sports Day」を開催しました。晴天の下、子どもから大人まで約200名の地域住民が参加しました。

リニューアルしたばかりの競技場では、さまざまなアクティビティが行われました。走り方教室には東京2020オリンピック代表の寺田明日香選手を迎え、慶應大出身の陸上選手たちがコーチとしてアドバイスをを行い、リレーに挑戦しました。スポーツ体験会では、学生団体「ホワイトホーンズ」によるフライングディスク教室や、フィンランド発祥の「モルック」を体

験しました。さらに、競走部による体力測定コーナーでは、競技場の素晴らしい環境を活かして走り幅跳びや50m走が行われ、実際の競技用具にも触れる機会があり、参加者にとって有意義な一日になりました。イベントを通じて、大学と地域が一体となり、スポーツを通じた連携とつながりを育む貴重な機会となりました。
(石手 靖・清水花菜)



ライブラリーコンサート2024春

日吉メディアセンターでは、新入生歓迎行事として2016年度から毎年ライブラリーコンサートを開催しています。今年度は日吉図書館にて5月15日に弦楽四重奏、5月24日にジャズの演奏を聴いてもらいました。図書館という通常は自主的な勉学を目的として来館する空間で、プロによる質の高い芸術に触れ集う機会となり、2つの企画で約200名の参加がありました。各曲間には拍手が沸き、終演後も学生たちがステージの演奏者を囲み和やかな懇談が続きしました。アンケートには「プロによる

演奏を初めて聴き感動した」「楽器を演奏してみたくなった」「留学生ですが、私も知っている曲があって楽しかった」など、好意的な感想が多数寄せられました。
(日吉メディアセンター 吉沢亜季子)



日吉キャンパス公開講座

2024年度の「日吉キャンパス公開講座」は前身の「横浜市民大学講座」から数え50回目の開催となり、10月5日から11月30日までの日程を組みました。統一テーマに沿った話題について、日吉キャンパスの教員を中心に研究機関としての義塾が持つ知的情報源を広く公開し、塾内外を問わず幅広い年齢層の皆様へ学んでいただくことを目標にしています。コロナ禍を経て、webのみで募集する、募集開始を遅らせる、日吉で一番広い教室を使用する等のコロナ禍での運用を残しつつも、2023年度に引き続いて、コロナ禍前とほぼ同様の運用とすることができました。

受講申し込みについては、定員を上回る応募をいただき、一

部キャンセル等も発生しましたが、定員となりました。統一テーマを「際（きわ）」とし、10講師（塾内5名、塾外5名）による各90分の講演が行われ、分野は芸能、データサイエンス、スポーツ、国際交流、哲学、生物学、社会問題、宇宙、デザイン、文学、地理、歴史等、特定の分野に偏ることなく多岐に渡るようにしました。

各回の講演者やタイトルは下表をご参照ください。また「日吉公開講座」で検索いただけますと、過去の実施分についても記載がございます。

<https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/exchange/open/>

(寺沢和洋)

日吉キャンパス公開講座「際（きわ）」

講義日	講 師	テーマ
10月5日（土）	3時限目 増田 久雄	人生、再起動 一石原裕次郎の流儀。そして、遺したもの—
	4時限目 清水 千弘	データの破壊力 一社会科学とデータサイエンスの際を考える—
10月26日（土）	3時限目 友成 晋也	野球のチカラでアフリカと日本の未来を創る 一エンジョイベースボールを国際協力に—
	4時限目 荒金 直人	別れ際の経験と経験の別れ際 一知識の構築について—
11月2日（土）	3時限目 古川 亮平	「自己」と「非自己」の境界 一生物学の視点から—
	4時限目 伊部 尚子	「身寄りのない単身高齢者の住まい問題」を考える 一クロスオーバーが解決への道—
11月16日（土）	3時限目 森本 睦子	太陽系探査機のとばし方 一重力圏の際を考える—
	4時限目 鈴木 一好	デザインで自分をブラッシュアップする時代 一<デザインの民主化+生成AI>がもたらす可能性—
11月30日（土）	3時限目 山口 早苗	日中の境を超えた人、知識、言葉
	4時限目 山下 一夫	中国の際—どこからどこまでが中国なのか—

※3時限目 13:00~14:30、4時限目 14:45~16:15 ※公開講座は変更・中止・延期となる可能性があります。

未来先導基金

「みなさんmiraiプロジェクト」第二期

2024年度慶應義塾未来先導基金に採択された本プロジェクト。キャンパスでできない学びを、慶應最大の森がある南三陸町（宮城県）をベースに行います。今年度は9名の学部・院生が、南三陸町を舞台に、それぞれが関心のあるテーマに分かれて、SDGsや防災を考える活動を行っています。

具体的には、■5月13日 18:15~20:00、森についての公開シンポジウム「南三陸発！慶應の森からひもとく生物多様性」（シンポジウムスペース）、一ノ瀬友博氏（環境情報学部）・鈴木卓也氏（南三陸地域イヌワシ生息環境再生プロジェクト協議会会長）。

■5月28日 18:15~20:00、防災についての公開シンポジウム「今、地震がおきたら？—キャンパスで考える防災—」（シ

ンポジウムスペース）、井奥洪二氏（経済学部）、山内明美氏（宮城教育大学教育学部准教授）。

■8月8日 11:00~16:30、事前学

習会（シンポジウムスペース）、塚原沙智子氏（環境省）

■9月11日~13日、南三陸合宿。合宿後もさまざま活動予定。（HP）<https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/minasanmirai/>

(津田真弓)



創造力とコミュニティ研究会 第23・24回

第23回と第24回の「創造力とコミュニティ」研究会はサイエンスライターで飼鳥史研究の第一人者である細川博昭氏をお迎えし、「共に暮らす1&2」のタイトルでペットと人間の関係について語っていただきました。ペットは私たちのコミュニティの一員であり、私たちの命と生活を支えてくれる存在です。しかし、そもそも、ペットである動物と人間はどれほど違う存在なのでしょう。第23回目の研究会「共に暮らす~ペットと私たち~」（7月23日）では、「ペット」の歴史を振り返ってみました。その中で分かったことは、私たちは野生動物とともに暮らしていく過程で（例えばオオカミ）、ともに進化してきたという事実です。つまり人間の存在は、動物たちが作ってきた

ものでもあるのです。

そして第24回目の研究会「共に暮らす~鳥が期待する人との暮らし方~」（8月27日）では鳥の目線で人との暮らし方について語っていただきました。実は鳥と人は実によく似ており、人間的と思われるような心理や行動は、人が鳥から学んできた可能性すら考えられるのです。90分にわたるお話はあまりに興味深く、第3回目開催のリクエストが出るほど、奥の深い研究会となりました。

(横山千晶)



**【基盤研究】文理接続プロジェクト第4回
ワークショップ2 中間発表1**
9月28日(土)13:00~17:30 日吉キャンパス来往舎103・104

【日吉キャンパス公開講座】「際(さわ)」
1回目:10月5日(土)、2回目:10月26日(土)
3回目:11月2日(土)、4回目:11月16日(土)
5回目:11月30日(土)
13:00~16:15 日吉キャンパスD101教室

【「学び場」プロジェクト】
10月14日(月)~2025年1月24日(金)
日吉図書館1階スタディサポート

【HAPP】HAPPO STYROL INSTALLATION
11月5日(火)~11月18日(月) 日吉キャンパス第5校舎跡地

**【学会・ワークショップ等開催支援】
慶應義塾大学体育研究所・(公社)全国大学体育連合
関東支部共催ワークショップ「ルーブリック作成と
活用を考える ワークショップ&ディスカッション」**
11月9日(土)14:00~18:00 日吉キャンパス スポーツ棟

**【読書会】「晴読読雨」第11回:若澤佑典
「〇〇学」エトセトラ しっぽ学?きのこ学?**
11月11日(月)17:00~18:00
日吉キャンパス来往舎小会議室

**【教養の一貫教育vol.10】舞踏家・上杉満代による舞踏
ワークショップ「呼吸を遊び 体と遊び 床を踏み!」**
11月20日(水)15:15~17:30
慶應義塾高等学校 日吉協育棟 日吉協育ホール

【読書会】「晴読読雨」第12回:若澤佑典
12月7日(土)10:00~13:00
日吉キャンパス来往舎小会議室

**【HAPP】新入生歓迎行事 メイクで探求する個性
自分を引き立たせる技と心**
12月13日(金)16:30~18:30 日吉キャンパス来往舎大会議室

**【HAPP】日吉音楽祭2024 室内楽・
ピアノマラソンコンサート**
12月21日(土)14:00~
日吉キャンパス協生館 藤原洋記念ホール

**【学会・ワークショップ等開催支援】
国際フレームネットワークワークショップ2025**
2025年3月7日(金)~8日(土)
日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース

**【選書刊行記念企画】著書と読むセンター選書
第4回 若澤佑典**
日時未定 日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース

9月

10月

11月

12月

2月

**【学会・ワークショップ等開催支援】第25回英詩研究会
(研究発表および「英詩と風景」シンポジウム)**
9月28日(土)13:10~18:00 日吉キャンパス来往舎大会議室

**【情報の教養学】第5回:大澤博隆
「情報工学から想像学へ:ヒューマンエージェントイン
タラクションから物語応用までの系譜」**
10月16日(水)16:30~18:00
日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース

**【HAPP】古楽トークコンサート
スペイン中世音楽の楽しみ**
10月22日(火)15:00~16:30
日吉図書館地下1階AVホール

**【学会・ワークショップ等開催支援】
スペイン史学会第45回大会**
10月27日(日)13:00~18:00
日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース

**【創造力とコミュニティ研究会26】
社会課題をアートで解決するグローバルアートチーム
LITTLE ARTISTS LEAGUEの全て**
10月29日(火)18:30~20:00 カドベヤ

【創造力とコミュニティ研究会27】ヨコハマ喫茶去
11月5日(火)18:30~20:00 カドベヤ

**【学会・ワークショップ等開催支援】
第19回日本応用老年学会大会**
11月9日(土)~10日(日)
日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース/協生館 藤原洋記念ホール

【HAPP】ライブラリーコンサート
11月11日(月)①13:45~ ②15:00~
日吉図書館地下1階AVホール

**【基盤研究】文理接続プロジェクト第5回
ワークショップ3 中間発表2**
11月23日(土) 日吉キャンパス来往舎103・104

**【情報の教養学】第6回:北村崇師「なぜAIは差別社
会を作ってしまうのか?~問題と防止策について~」**
12月18日(水) 日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース

**【学会・ワークショップ等開催支援】
国際シンポジウム「日本映画のモダニティ」(仮題)**
2025年1月13日(月・祝) オンライン開催

**【基盤研究】文理接続プロジェクト第6回
ワークショップ4 最終発表**
2025年2月28日(金) 日吉キャンパス来往舎103・104

※活動予定は中止・延期・変更となる可能性があります。

私のランニング自慢

昨年からはランニングを始め、そろそろ一年が経過します。当初は、腰痛防止や体力増進の目的で週に1度ゆっくり走るくらいだったのですが、意外とはまってしまい、今では2日に1回はジムのトレッドミルで45分ほどランニングしています。始めたときは距離を伸ばしたり、タイムを上げたりすることは、一切想定していなかったのですが、最近では効率の良い走り方を知るためにYouTubeでランニングの動画を見るうちに、陸上の長距離選手の走り方に憧れるようになり、フォームを改善して、もっといい走りがしたいという欲が出てきました。

こうした表向きの理由はさておき、もう一つランニングにはまった理由があります。それは走りながら見るNetflixやAmazonPrimeなどの動画サイトです。大好きな洋画を見たり、話題になった海外ドラマを見たりと、走る時間を利用して映像作品を見るのが大きな楽しみになっています。映画であればいいシーンが終わるまで、ドラマならば一話を見終わるまで、と自分に言い聞かせることで、トレーニング終盤のつらい時間もやり過ごせるような気がします。

また、思い切って今年秋には初めてハーフマラソンに挑戦することにしました。その練習でも動画サイトがきっといい相棒になってくれそうです。

(理工学部 山口早苗)

